



これからも学び続ける人生を

三年次主任 今井 祐美子

この3年間を振り返ります。

高校一年次は、ほとんどの授業がクラス単位で行われ、クラス替えしたくない！と思えるほど仲良く過ごしました。提出物が滞る生徒もいましたが、最後まで根気強く出すことを求める先生方のおかげで、この世の中逃げられないものもあることを学びましたね。産人の授業ではそれぞれのライフプランを発表しました。卒業を迎えるにあたってまとめの冊子を読み返してみましたが、ほとんどの生徒がその時のプランに向かって卒業後進んでいくことが分かりました。本当にすごいことです。系列を選択し、インターンシップを経験し、これから自分が一番力を入れて学ぶべきことを整理したのが一年

次でした。

系列に分かれて学習した二年次。多くの生徒が学年末の評定平均を上げました。それは、自分の興味や進路に応じた系列の学習に意欲的に取り組んだことに加え、夏期・冬期講習、公務員講習、就職セミナー等に参加し、自分のすべきことが明確になってきたからでしょう。同じ進路を目指す集団も作られてきました。

いよいよ三年次。私は主に面接練習を担当でした。繰り返し練習していく中で、ほぼ全員が自分の中にある真剣な一面を発見したのではないのでしょうか。自分の長所を再確認する。高校生活で取り組んだこと、身につけたことについて自信をもってアピールする。普段

は自分を褒める言葉など照れくさくて口に出せませんが、面接では自分をしっかりアピールしなければならず、高校受験の面接とは比になりません。企業や学校はその場所での何を頑張ってくれるのかを一番知りたいのです。そして、そこで頑張るためにどんな力を持つている人なのかを知りたいのです。欠点を直すことも大事ですが、それぞれの持ついいところを伸ばすことの大事さを感じたと思うので、自信をもって前に進んでください。

ここ数年のコロナ禍で、本当は経験できたはずの事、楽しめたはずのことを我慢して過ごしてきました。それは、自分の健康のことはもちろん、周囲への思いやりの気持ちがあつての我慢だったと思います。しかも、その中でもやれることを見つけて取り組んだこと、やろうと動いたことは皆さんの中での宝物です。そんないつも前向きな姿は周囲の大人にも勇気をくれました。きつと数年後、「高校生の時いい子だったな」と振り返られることでしょうか。このような力をこれからも持ち続けてください。

3年間見守り続けて、最後に皆さんに願うことは、本当に幸せな人生を送ってほしいということです。そのために、これからも現在の自分に

満足せず、積極的に学び続ける姿勢を忘れないでほしいと思います。そして、皆さんはそれができる人たちだとも思っています。これからは4月になれば自動的に時間割や教科書が与えられるわけではありません。進学・就職を問わず、学ぶ内容も学ぶ時間も自分の意志で選択していく人生が待っています。また、行動したことがいつも成功するわけでもありません。失敗したり、選ばれなかつたりすることもあつていいでしょう。そんな時は、身近な人に相談して、決して人や物のせいにならなくていいで、失敗したことに向き合い、次に進む勇氣やエネルギーを作ってください。そのためにも、多分野の知識を持っていることで新しい希望が見えてくるはずです。

令和の時代を引っ張っていく皆さん。自分のために、大切な人のために、自分を高め、自分に自信をもって幸せな人生を！最後に心からエールを送る！



◆令和 3 年度 3 年次進路状況 (2 月 17 日現在)

Table with columns for gender (男/女), education level (進学/就職/自営/未定), and institution type (大学/短期大学/各種専門学校/公務員/民間企業).

内定先一覧

(2 月 17 日現在)

Main table listing specific institutions and their counts, categorized by type: 国公立大学, 私立大学, 専門学校・大学校, 公立短大, 私立短大, 看護医療系専門学校, 公務員, 民間企業.

◆令和 3 年度 1 年次 1 月進路希望状況 (1 月 7 日実施)

Table showing career aspirations for the first year in January, with columns for gender, education level, and institution type.

◆令和 3 年度 2 年次 1 月進路希望状況 (1 月 7 日実施)

Table showing career aspirations for the second year in January, with columns for gender, education level, and institution type.

一般入試へのチャレンジ増加

進路部長 佐藤眞由美

【令和3年度 進路内定状況】 《進学》

入学当初から国立公立大学への進学希望者が多かった今年の3年度は、志望を大きく変更することなく二次試験に向かった。これには、総合学科の特色を生かした総合型・推薦型選抜への取り組みに加え、共通テストを含めた学力養成にも継続的な努力が必要になる。一般型選抜への受験生も一定数おり、この健闘ぶり、最後まで自分の希望を貫く姿勢が後輩にも受け継がれてほしいと願っている。

分野としては、今後の決定者を見込めば、医療系、教育系で五十名近くを占める。また、栄養・調理や美容系といった職業に直結する学校への進学も多く、将来のキャリア形成を目指した堅実な進学先選びを行っていると思われる。

進学先は、山形県内を中心に、仙台への進学が多い傾向が更に顕著となった。関東方面への進学者は十名程度と少なく、地元志向は更に強まった。

《就職・公務員》

公務員・民間とも県外就職は各一名であり、地元を支える意識の高さが表れた。

民間就職者は例年より少ないが、4月当初から民間就職を希望していた生徒全員が、一回目の受験で内定を得ることができたのは素晴らしい。就職向けの授業や面接指導にも積極的に取り組んで職業意識を高めた成果が実を結んだと思われる。また、例年求人数の少ない事務職への希望が殺到し、複数回の受験を要する場面が多いが、今年は早い時期から職種を柔軟に希望する生徒が多かった。

ことも大きな要因だと考えている。公務員は安定志向が強まり、今年度も激戦が予想された中、国家・県・市町村にわたって内定を得た。一次試験の結果はもちろん重要だが、面接や作文は一次試験後からの対策では間に合わない。日頃から社会に関心を向けて情報収集をするとか、相手に伝わりやすい明朗な話し方を心掛けるなど、今からできる対策もあることを意識してもらいたい。

「日々、明るく・元気に・精一杯、努力する人間」になる!!

二次主任 後藤 篤

松下幸之助(松下電器産業株式会社)「現・パナソニック株式会社」の創業者)は「松下はどのような会社ですか?」という質問に対し、「松下電器は人を作る会社です。あわせて電気製品を作っています。」と答えたとそうです。

教員の職務は、生徒に「責任」を与え任せることだと考えます。社会・組織の一員としての「責任」。将来を担う者としての「責任」。自己の存在・人生に対する「責任」。人間は責任を与えられれば、自分でいろいろ考え、熱心に取り組むようになります。その結果、力が養われ、持てる力が十分に発揮され、成長も図られます。

生徒を信じて、認めて、任せる。傾聴と承認、問いかけとアドバイスにより、自発・自律・自立的な人間を育成する学校・学年でありたいと思っています。

学校は生徒に対して、学びの場・課題・指導を提供します。そして要望します。けれども、なぜそれをしなればならないのかを考え、そしていろいろな工夫をして、自らを育ててゆく「覚悟と実践」が生徒の側に

なければ、何も始まりません。自らの熱意と工夫をもち、自らを育てていくという覚悟なくして、生徒の成長はありえません。

もし、人を育てることが非常に上手な指導者がいて、要領よく生徒を導き育ててくれるとします。それでその生徒は苦勞せずに成長するかもしれないませんが、そういう指導者はいつもいるとは限りません。(むしろ、そうでない場合の方が多いと思います。)そのとき生徒はどうするでしょうか。悲観する?希望を失う?やけになる?それでは何にもなりません。優れた指導者の在・不在、優れた指導者との邂逅の有・無にかかわらず、自ら考え、判断し、実践していくと(とうや・人を鍛えて育て上げる)ことはあると思います。

「生きる」ことは「判断・選択すること」です。「人生」は「判断・選択」の繰り返しです。「進路」も「受験」も「判断・選択」です。人が合理的な情報・条件は「知識」です。「知識」は「獲得する↓納得する↓記憶する↓使える(活用できる)」の過程を経て、4つ目の「使える(活用できる)」の段階に到達して、はじめて情報・条件として稼働します。「使える(活用できる)知識」にする方法は「自分の力でやる↓確認する↓補習する」を集中して継続的に行うことが大事です。

「日々、明るく・元気に・精一杯、努力する人」になって、3年度には「進路を実現する人」になってほしいと思っています。

Aさんの一年後

一年次主任 後藤 功

ちょうど1年前に卒業した生徒た

ちと偶然会うことがあります。そのとき「主任!」だったり、「後藤先生!」だったり、呼びかけてくるときは様々です。怖いイメージがあったと思うので、卒業後は「近づいてこないだろう。」と思っっていますが、街中で人懐っこい感じで見られると良い意味で戸惑いを感じてしまいます。ただ、スーパードレジで並んでいるとき言われると、少し恥ずかしいです。さてこの場では、特に印象に残った皆さんの先輩について書いてみます。

Aさんは高校時代、警察官になることを熱望し、努力を積み重ねてきた人です。野球部員でもあり、性格も大変よく知っています。運動能力が極めて高く、まじめで穏やかな生徒でした。先日、警察学校の卒業式があり参加させてもらいました。教官から一人ひとり名前を呼び出されるとき、Aさんの返事が大きくてカッコよく、加えて起立する姿もシュツとしていて感動しました。本当に厳しい生活だったと思いますが、それを乗り越えた自信・これからの希望・人のために役立つという覚悟;すべてが凝縮されている姿であると感じました。まずは交番勤務からとなりますが、「地域に愛される素晴らしい警察官になれる」と強く確信しました。何だか偉そうになっしまいました。何かのすこく成長したと心から思いますし、「お前に任せたい!」と言っただけだと思えます。Aさんは将来、交通関係の部署で働きたいという希望を持っています。わかりやすく言えば『白バイ隊員』。もともとイケメンですので、バイクに乗れば相当カッコ良いでしょうね。その希望が叶ったときは天童高校に来てもらい話をしてもらいましょう。もちろん白バイで!

◆合格者インタビュー◆

合格への道

東北福祉大学 健康科学部
リハビリテーション学科 理学療法専攻

鈴木 美琴

Q なぜその大学・学部・学科を選んだのですか？

A 私は将来、理学療法士になりたいと考えています。そう考えたきっかけは、中学時代にけがをした際、ある理学療法士の方に、身体的にも精神的にも支えていただいたことです。

Q なぜその大学・学部・学科を選んだのですか？

A 私は将来、理学療法士になるためには、専門の4年制大学か、専門学校で学び、最終的には国家試験に合格しなければなりません。実際に、オープンキャンパスに参加したり、資料などで調べたりした結果この東北福祉大学の進学を決めました。受験対策や勉強での工夫、自分の強みは？

Q なぜその大学・学部・学科を選んだのですか？

A 私は将来、理学療法士になるためには、専門の4年制大学か、専門学校で学び、最終的には国家試験に合格しなければなりません。実際に、オープンキャンパスに参加したり、資料などで調べたりした結果この東北福祉大学の進学を決めました。受験対策や勉強での工夫、自分の強みは？

Q なぜその大学・学部・学科を選んだのですか？

A 私は将来、理学療法士になるためには、専門の4年制大学か、専門学校で学び、最終的には国家試験に合格しなければなりません。実際に、オープンキャンパスに参加したり、資料などで調べたりした結果この東北福祉大学の進学を決めました。受験対策や勉強での工夫、自分の強みは？

すことで自信が生まれます。悔いの残らないように最後まで頑張ってください。

夢を諦めずに

千葉労災看護専門学校

太田 歩那

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 先輩が進学している学校であり、チューター制度を設けて、1年生が不安なく学習や学校生活ができるように、2年生の先輩が相談相手として支援してくれるからです。また、寮も完備されているところ

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

進路実現に向けて

国家公務員(関東甲信越)防衛省事務官

加藤 優子

Q なぜ公務員を目指したのですか？

A 父と姉が公務員であるため、小さい頃から公務員という職業に興味を持っていました。きっかけは、中学校で行われた「親子進路説明会」です。そこで、公務員は、社会の土台をつくり、国民のために働くという、とてもやりがいのある仕事であること

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は、公務員を目指すために、受験体制の整っている天童高校を選びました。もちろん、1年次から公務員講習を受講し、自宅でも復習するという取り組みを行いました。公務員試験の勉強は、復習が大切です。繰り返し解くことで問題にも慣れて、間違えやすい問題への苦手意識も徐々になくなっていくと思います。

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

雪に耐えて梅花麗し

もがみ中央農業協同組合 総合職

長南 尋斗

Q なぜ農協を選んだのですか？

ました。その後、小さい頃から馴染みのあった農業の仕事に就きたいという思いが徐々に強くなり、進路希望を変えました。因みに私の両親の実家では、農業を営んでおり、田植えや稲刈りの際にはよく手伝いをしていました。その際、自分の手で食料を生産するという確かなやりがいを感じていました。

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は、農業界では、従事者の高齢化が急速に進んでおり、私が2年間学んできた「福祉」という視点も生かしてこの仕事に取り組んでいけると考えています。受験対策や勉強での工夫、自分の強みは？

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

Q なぜその学校・学科を選んだのですか？

A 私は推薦入試を利用したので、小論文と面接に力を入れました。自分の思いを相手に伝える力が大切です。そのため、志望理由や自己PRなどの内容について暗記するのではなく、筋道を立てて話す練習を何度も繰り返しました。また、医療に関する本を読んだり、最近のニュースを調べたりして、さまざまな情報を集めることで、話の幅が広がります。小論文では、字数に慣れるために、何度も過去問を練習しました。そこでは、自分の体験や考えをしっかりと入れることが大事です。

